

Amir Tsarfati 氏 中東アップデート 2016年12月4日公開

国連、イスラエルに敵対票

.....  
クロアチアのザグレブより、こんばんは。アメリカは朝、アジアは深夜の時間ですね。今回ライブでお伝えしたかったのは、今インターネットに出回っている、数日前の国連の決議について、世界中からご連絡をいただいたからです。

まず、事実からお伝えすると、イスラエルと国連は、初めから友好的な関係を築いていないということです。理由はいたってシンプルで、国連はほとんどが民主主義ではない国々から成り立っており、彼らの多くがアラブ・イスラム界の圧力に屈服しています。ですから、国連が受け取るイスラエルに対する決議のほとんどは、完全に偏った一方的なもので、実際に起こっていることに関しては、一切反映されていません。この茶番劇について、これから見ていきますが、みなさんに理解しておいてほしいのは、人々が実に警戒していて、

「国連がイスラエル分断に投票した！」

「ゴラン高原をイスラエルから奪う！」

「エルサレムを分断しようとしている!!!」…

私は少しトーンダウンしたいと思います。国連総会で投票されたこれら6つの決議は、イスラエル国内ではニュースの見出しにもなりません。こういうことは、私たちはすっかり慣れていて、毎年11月末になると行われる儀式なのです。国連がパレスチナ人と結束して、「そこをパレスチナと呼ぼう」と呼びかけた日。彼らは毎年、きっちりと同じことを行います。20のアラブが出資する決議は、毎回基本的には同じです。

そこで私は、これら国連に関して、世間が受け取っている大量の間違った情報、悪い情報、「ガセネタ」にメスを入れていきたいと思います。なぜなら、どの情報も一切現実的な意味を持っておらず、何の力もないからです。国連総会は命令したり、厳しい空気を醸し出しているかも知れませんが、彼らの発言や決断、採択したことはどれ一つとして何の意味も持っていません。なぜかという、全ての事柄はただ表面的に変えただけに過ぎないからです。そこで、理解すべき事、明確にしておくべき事は、まず第一にイスラエルは、初めの初め、初日から、国連の支持を受けてはいませんでした。私たちにとって、国連で支持を受けるということは幻想でしかなく、私たちはそんなことが起こるとは考えもしません。次に理解すべきは、エルサレム、ゴラン高原、西岸地区やその他の事に関する決議は、何年も前に国連がすでに採択しているものです。彼らはいつも新しい名称や形・数を示してきますが、実態は常に同じことです。最近変わって来ているのは、人々がより過敏になっていることです。特に聖書預言に注目している人は、さらに過敏です。それは、バラク・オバマがまだ権力を握っていて、任期終了の前に反イスラエル政策を推し進めることを、人々が期待している、という理由からです。これに関して、はっきりとお伝えしておきます。アメリカ合衆国は現

に、「我々は国連の反イスラエル決議を支持しない」と言いました。「それに関する全ての件に、大統領拒否権を行使する」と。アメリカ側から見れば、あと一ヶ月半で任期が終了する時に、イスラエルに強く敵対しても何の意味もないのです。しかし、さらに説明するなら、明確に示しておく必要があると思うのです。理解すべきは、聖書には事実が書かれていて、国々—一つ二つの国ではなく、—ほぼ世界中の全ての国々が、何らかの形でイスラエルを分断したことに對して責任を負い、責められることとなります。何らかの形でイスラエルを分断し、ユダヤ人を痛めつけたことに對して、です。これは実に明確で、そんなわけで国連は、現在世界中に存在する第一の集団になるのでしょう。これだけの国家、ほぼ世界中の全ての国が集まっています。そして私は、国連がイスラエルを支持し、真実を支持し、イスラエルの人々を支持するとは、一切期待していないのです。

一つ皆さんにお読みしたいのは、ユネスコが神殿の丘の決議を通過させた時にもこれを読み上げたと思いますが、もう一度読みたいと思います。預言者ヨエルの書です。ヨエル書は、終わりの時に對して、とても深い記述がされています。ヨエル書3章1~3まで。ヘブル語（※日本語：新共同訳）では、実はここは4章なのですが、英語（※日本語：新改訳、口語訳）では3章です。読んでみましょう。

1 見よ。わたしがユダとエルサレムの  
繁栄を元どおりにする、その日、その時、  
（ヨエル書3：1）

つまり、神が言われているのは、「いったんイスラエル・ユダヤ人がその地に戻ったら。」…これはイスラエルの主張です。

2 わたしはすべての国民を集め、

全ての国民、全ての国々。私にとっては、国連を彷彿させますが、主は続けて言われます。

彼らをヨシャパテの谷に連れ下り、  
ヨシャパテとは、「主の裁き」という意味で、オリブ山と神殿の間にある、キドロンの谷です。

その所で、彼らがわたしの民、わたしのゆずりの地イスラエルにしたことで彼らをさばく。

彼らはわたしの民を諸国の民の間に散らし、わたしの地を自分たちの間で分け取ったからだ。

（ヨエル書3：2）

つまり神は、世界の諸国を2つの行いに関して責められます。一つ目は、過去にユダヤ人を散らしたこと。二つ目に、その地の分断です。聖書の記述は実にシンプルで、主がその民をその地に戻すと言われた時、主は二つの事を言われました。それはエゼキエル書 37 章にあって、主は言われました。「あなたがたを、あなたがた自身の地に戻す」と。つまり、あなた方をあなた方の土地に戻す、それが存在するという意味です。ところが、人々にとってはどうも不明瞭だったのが、主が「あなたがた自身の地」と呼ばれた、その国の名前を、それから主はエゼキエル書 37 章 12 節でこう言われています。

12 それゆえ、預言して彼らに言え。神である主はこう仰せられる。わたしの民よ。見よ。わたしはあなたがたの墓を開き、あなたがたをその墓から引き上げて、イスラエルの地に連れて行く。

(エゼキエル書 37 : 12)

「イスラエルの地」です。それから 14 節でこう言われます。

14 わたしがまた、わたしの霊をあなたがたのうちに入れると、あなたがたは生き返る。わたしは、あなたがたをあなたがたの地に住みつかせる。このとき、あなたがたは、主であるわたしがこれを語り、これを成し遂げたことを知ろう。——主の御告げ——

(エゼキエル書 37 : 14)

面白いと思いませんか？世界の諸国は、その地を分断し、ユダヤ人たちを散らそうと必死で、神はユダヤ人を集め、彼らを彼らの地に戻そうとされているのです。そして主は、まず第一にそこを「イスラエルの地」「あなたがたの地」と呼ばれました。この違いがわかりますか？そして神が、彼らを行いに応じて裁かれる、つまり、彼らがすでにしたこと、ユダヤ人を散らし、イスラエルの地を分断したことです。そこで、誰もが理解しておかなくてはいけないのは、国連がしていることに、私たちは驚くべきではないということです。皆さんは驚いてはいけません。全てはあらかじめ、聖書の中で告げられたことです。「全ての国々」なのです。主は、「いくつかの国が」と言われたわけではありません。「全ての諸国」だとヨエル書 3 章で言われています。そして、世界の諸国を集めている団体はただ一つ、それは国連です。ですから、国連がイスラエルに敵対して投票したとしても、私は驚きません。むしろ、私は面白く見物しています。なぜなら、彼らはイスラエルに敵対しているだけでなく、彼らは神に敵対しているのですから。イスラエルの神、神の民であるイスラエルに対して、です。さらに人々は、神がイスラエルの民になされたことに対しても敵対しています。聖書には、こう書いてあります。

14 …このとき、あなたがたは、主であるわたしがこれを語り、これを成し遂げたことを知ろう。  
——主の御告げ——

(エゼキエル書 37 : 14)

神が私たちを約束の地に戻されたのです。神は約束されただけでなく、実際に実行されました。ですから、我々の地を分断しようとしたり、我々を散らす試みは、悪魔のものであって、神からのものではありません。そして神は、それに関わった全ての国を裁かれます。これが明確にされるべき点で、これを基に、これからお話しします。

国連が 11 月 29 日にこれら 6 つの決議に投票したのは、面白いと思いませんか？皆さんの記憶を辿ってください。1947 年 11 月 29 日は、国連が「2 つの人々のための、2 つの国家」に投票した日です。こう言うと、皆さんは「ちょっと待って！それは 1948 年にイスラエルが国として誕生する前じゃないか？」と言うでしょう。その通りです！イギリス委任委員会が「自分達では中東に平和をもたらすことは無理だから、国連に任せよう」と決め、そして国連は、次々と代表団を送り込んで、ただ資金を無駄にただけです。それは今の今まで続いていて、何の役にも立たないだけでなく、何の目的もない行為だと言っても良いでしょう。我々に分かっているのは、彼らはいずれイスラエルで、ユダヤ人とアラブ人を分断した地図を持ち出して、「そのために、ここはパレスチナと呼ばれるんだ。」と言い出すでしょう。ところが、ですよ。恐らく皆さんは聞いたことがないでしょうが、ユダヤ人・イスラエルは「Yes、承知しましたよ」と言ったのです。それを拒否したのは、アラブ人・パレスチナの方です。おもしろいでしょう？1947 年の国連で、イスラエルが独立国家となる前に、我々が東エルサレム、ゴラン高原、西岸地区、シナイ半島など、世界が「占領」だと呼んでいるこれらのどれも持っていない時に、これら全てが我々のものになる前に、アラブはすでに拒否していたのです。つまり彼らは、イスラエルが西岸地区やゴラン高原を支配することを拒否しているわけではありません。彼らは西岸地区やゴラン高原、エルサレム旧市街がなくても、イスラエルの存在を否定しているのです。想像できますか？現在彼らは世界にこう告げています。「イスラエルがあそこを占領している限り、我々と彼らとの間に平和は有り得ない。」と。そして彼らが占領地として挙げているのは、東エルサレム、西岸地区、ユダヤ・サマリヤ、それからゴラン高原。ところが、我々がこれらの地を所有する以前に、彼らは差し出された 2 国共存案を拒絶したのです。イスラエルの初代外務大臣であったアバ・エバンがかつてこう言いました。「パレスチナ人は、機会を逃す機会を、絶対に逃さない」と。1947 年に始まって、国連は 2 国共存案を提案し、世界はそれに賛成したのに、彼らはそれを拒否、それ以降も独立戦争（1948～1949）、6 日間戦争（1967）の終わり、1973 年の戦争（第 4 次中東戦争）の終わり、さらにはアメリカによって破られた、イスラエルとエジプトとのキャンプデービッド合意（1978 年。アメリカ：カーター大統領、イスラエル：ベギン首相、エジプト：サダト大統領）、オスロ合意（1993 年。アメリカ：クリントン大統領、イスラエル：ラビン首相、PLO：アラファト議長）、いつの時も彼らに対立を超えて 2 国間で同意しようとなると、パレスチナ側が拒絶するのです。ですから、世界は無数の決議を持ち出しますが、喧嘩は一人じゃできません。イスラエルの地にユダヤ人地域がある限り、相手側は 2 国間共存

案に同意する気は毛頭ないということは分かっています。世界は2国間共存案について、皆さんに信じ込ませようとするでしょう。ユダヤ人にはユダヤ人国家、アラブ人にはアラブ国家。しかし、2国間共存案に反対しているのはアラブ人です。彼らはユダヤ人立ち入り禁止のアラブ国家を創り、もう一方ではアラブ人とユダヤ人が共存し、ユダヤ人国家とは呼ばない、これが彼らの要求です。ですから、彼らは2国間共存案などいらないのです。自分たちは1個半ほしいのです。だから何一つ上手くいかないのです。

聖書に書いてあることを覚えておいてください。エルサレムの問題、現在はイスラエルとパレスチナの問題になっていますが、これは患難時代の最後の最後まで続くのです。最後にエルサレムが、世界の国々にとって「よろめかす杯」(ゼカリヤ 12:2)となります。そしてエルサレムに国々がやって来て、反キリストと共に戦い、最後の戦いはエルサレムで起こるのです。多くの人がこれを「ハルマゲドンの戦い」と呼びますが、聖書にはハルマゲドンの戦いとは書いてありません。黙示録 16:16 でハルマゲドンに軍隊が集まってくるとありますが、戦争が起こるのはエルサレムです。

次に、今年(2016年)の11月29日、30日に国連が採択した決議についてお話しします。ほんの数日前のことです。私はこれを読んだ時に笑ってしまいました。何が面白かったのかと言うと、彼らが言ったのが「イスラエルはゴラン高原の支配をシリアに渡せ。」これを聞いて私が思ったのは、「こんな決議に投票したのは、どこの脳無しだろう!？」対話するシリアも存在しなければ、対話することも何もないのに。シリア側のゴラン高原には、反政府軍、アルカイダ、アル=ヌスラ戦線、ISIS、ロシア兵士、ヒズボラがいます。我々は誰に渡せば良いのでしょうか？神が我々を救われたのです。もしもっと前にビル・クリントンの圧力に負けて、我々がゴラン高原をシリアに渡していれば、今ごろISISはガリラヤ湖に足を踏み入れていたことでしょう。ティベリヤもハイファも爆撃されていたことでしょう。エルサレムはミサイルの射程に入っていたことでしょう。私たちは、なぜゴラン高原を絶対に渡してはいけなかったのかを、今まで以上に理解しています。と言うことで、決議①はゴラン高原の支配をシリアに渡せ、というものでした。

決議②は、ジュネーブ会議で、シリアの領域と市民の保護について。よく分かりませんが、これを決めた人たちは、これらに投票する前にずいぶんアルコールを飲んだようですね。また、決議③はエルサレムについてですが、失敗に終わったようです。基本的には、エルサレムの行いについて、イスラエルを叱責するもので、神殿の丘を示すのにイスラムの表現だけを用いて、ユダヤ教やキリスト教の聖書的役割を無視しました。国連は片方だけの決議案を用いて、イスラエルを攻撃しました。これらは6つあるうちの3つ。皆さんは恐らく、西岸地区や神殿の丘、ゴラン高原について話をしたいのですが、全ての事が現実とは完全に切り離されていて、実に馬鹿げた、一方的な偏向に満ちた大失態です。これらに賛成した

国でさえ、これらがどれだけ滑稽なものかを理解していると思います。彼らはただ、パレスチナ人に対して、利害が一致していることを証明するために、こんなことを行うのです。実際、総会長であったピーター・トムソン氏は、この会議にパレスチナ国旗のスカーフを羽織って出席しました。考えられますか？国連総会の議長が、パレスチナ国旗のスカーフを羽織って、会議を取り仕切っているのですよ。

そこで皆さんにお伝えしたいのは、これらのことで、誰も警戒を高めるべきではありません。イスラエルは、ユダヤ・サマリヤを維持しますし、エルサレムを維持します。だから国々はこれほどまでに憤っているのです。ゴラン高原については問題外で、イスラエル人の誰一人として、それを誰かに渡すことなど考えてもいません。なぜなら、今、相手側に話の出来る者が誰もいないからです。ですから皆さんにお願いします。これらの件に関して、少しトーンダウンをしてください。この大失態はほぼ毎年繰り返されているもので、我々はすっかり慣れっこなのです。これに関して、何千人ものクリスチャンがひどく心配して、私にメールをくれましたが、イスラエルでは新聞のトップページを飾る事すらありませんでした。それだけイスラエルにとっては、国連がつまらないものだということです。実際、私たちは国連（United Nations）を“United Nothing”＝無意味な結束、または無駄な結束と呼んでいます。ダヴィド・ベン＝グリオン初代首相さえ、この地域に国連が存在していること自体が冗談だと理解していました。

それからもう一つ、皆さんにお伝えしたいのは、国連はシリアに常設の駐屯地を持っていましたが、内戦が始まって、彼らはどこへ逃げ込んだと思いますか？イスラエルにです！国連はどこよりもイスラエル国内が一番安全だと感じているのです。彼らは我々を叱責しますが、それでもこちら側で我々と一緒にいる方が安心できるのです。実にご都合主義で、実にご一方的で、裏表があって、偏向に満ちて、基準がコロコロと変わります。実に偏見に覆われています。しかし世は、イスラエルやエルサレム、パレスチナ人のことになると、その二重基準を喜びます。

皆さんにお願いしたいのは、可能であれば私の You Tube メッセージを検索してみてください。“The Deception of The Nations”（※DIVINE US で日本語字幕付き「国々の欺き」視聴可能です。）これは昨年（2015 年）に話したメッセージです。その中で、この地について、地の所有権について、サタンがどのようにして国々を欺くか、その様子を紹介しています。あらゆる記事や文献、日時等を引用しており、全てが事実です。もし、あなたが事実を知らないと、多くの洗脳やプロパガンダ、それから当然、欺きに騙されやすくなります。しかし、もしあなたが真実を知れば、真理があなたがたを自由にすると聖書に書いてある通り（ヨハネ 8:32）、あなたも真実を確かめなければなりません。

ということで、以上が今日のアップデートです。とても重要なことだと思います。皆さんが理解しておくべき事は、全体的に見て、それほど重要なことではないし、皆さんが思っているほど警戒すべきことでもありません。しかし、皆さんには聖書的に背景を理解してほしいのです。国連がイスラエルやユダヤ人、エルサレムに対して行っていること、地を分割し、人を分割しようとする全ての行い、これは悪魔の計画です。

つい2時間ほど前に、私はクロアチアでのカンファレンスを終わりました。クロアチアは旧ユーゴスラビアから成る国で、カンファレンスはバルカン地方という素晴らしい所で行われました。ここのクリスチャンは少ないですが、教会は大入り満員で、礼拝の度に人々が救われ、来年はさらに大きな場所に招待されていて、クロアチアだけでなく、セルビア、ボスニア、スロベニア、モンテネグロ、それからマケドニアにも招かれています。それからバルカン地方で地域一帯の聖書預言カンファレンスを予定しています。この地域で神が働かれている様子を見て、本当に感動しました。人々は聖書預言に飢えていて、恐らくここで初めて行われたのだと思いますが、神はとても祝福してくださいました。この週末のためにお祈りくださった皆さんお一人お一人にかんしゃします。お祈りの効果は絶大でした。

もう一つ、皆さんにお伝えしたいのは、今後の予定のいくつかです。その前にニュースレターをご登録ください。Facebook からサインアップできます。それから You Tube チャンネル登録もよろしく願います。また、2017年5月に若者対象のイスラエルツアーを企画しています。聖書の地、人物についての真実を、大学生世代に注入します。そうすることによって、彼らはただ知識を吸収して、情熱をもって帰国するだけではなく、大学構内で彼らが宣べ伝えることができるようになります。キャンパス内では、あらゆる愚かさや知識のなさが氾濫していて、それは洗脳し、全ての良いもの、全ての聖書的なものに敵対するように仕向ける、敵の策略なのです。また、これまでに私と一緒にイスラエルツアーを回ったことのある方は、2017年10月に2度目の方のツアーを行います。内容は、10%は通常の必見観光地、そして90%が、黙示録にも登場する、ヨルダンのペトラを含む新しい地です。だから、大学生のお子さんをお持ちのお父さん・お母さんはいかがでしょうか祈り求めてください。お子さんに、これについてお話しするか、出資するか、これで子どもたちの人生が変わります。それから、これまでに私と一緒にイスラエルを回ったことのある方は、10月のツアーに参加希望の旨をメールでお知らせください。[info@beholdisrael.org](mailto:info@beholdisrael.org) です。たくさん新しいことを予定しています。

それから、来週はQ&Aを予定しています。ですが、よく聞いてください。多くの方がユダヤ人クリスチャンである私に質問してきます。

「私たち異邦人クリスチャンは、クリスマスはどうすべきなのか？」

「クリスマスを祝うべきなのか？」

「クリスマスは聖書にかなっているのか？」

「クリスマスツリーは？」

「名前は？」

「日にちは？」

「どうすればいいの？」

クリスマス数日前に、これらクリスマスに関するあらゆる質問に答える、特別なイベントを設定しています。また、皆さんがお持ちの別の質問にもお答えしていきます。中東、ヨーロッパ情勢に関する事などです。ヨーロッパは今、沸点にまで達しています。イタリアやデンマークでは、移民を止めたい右派と、イスラム側につく左派との間で、路上抗争が起こっています。彼らはさらに多くの移民を受け入れようとしています。フランスでも、オーストリアでも、その他多くの国でもそうです。ヨーロッパは今、非常に困難な状況となっているのです。それについてもお話するつもりです。なぜなら、いずれヨーロッパから反キリストが生まれる、と私は思っているからです。ですから、来週、Facebook に投稿します。Behold Israel のアプリをお持ちの方は通知を受け取れます。繰り返しますが、テーマは「クリスマス」、祝うべきか、祝うべきでないか？聖書的視点からお話しします。とても面白くなることをお約束します。

引き続き私たちのためにお祈りください。来年は多くの場所を訪れますし、二つのツアーを行います。とても楽しみにしています。一つはインドネシアとシンガポールから。もう一つはアメリカ・カリフォルニアから。人々にイスラエルを紹介するのは大きな祝福で、この地についての知識だけでなく、この地と聖書を繋げて、神が、私たちの人生や心にどう働かれるのかを見ていただきます。

Thank you!

God bless you!

I love you all!

続けてご連絡ください。お住まいの地域を教えてください。それから、必ずいつもいつも宣言することを忘れないでください！

「あなたと、あなたの家族とは、主に仕える」(ヨシュア 24:25)

これら全ての患難の中でも、あらゆる困難の中でも、あなたは主に仕える。あなたの口で聞かせてください。告白し、メールで、私たちにも伝えてください。なぜなら、あなたが私たちに対してそれを書き、それを口に出して宣言することで、私たちがこれからも続けていける、たくさんの力をもらうのです。

God bless you!

I love you all!

Shalom from Zagreb, Croatia!

間もなくイスラエルに帰ります。そしてインターネットでクリスマスや他の事についても



お話しします。

I love you!!!

Shalom from Zagreb!!!

Bye-bye!!!

---

このメッセージは BEHOLD ISRAEL のイスラエル在住メシアニックジューAmir Tsarfati 氏が公開したメッセージを、アメリカ在住の日本人クリスチャン木下言波が翻訳して YOUTUBE やブログに上げたものを文字化したものです。リアルタイムで知りたい方は、BEHOLD ISRAEL (英語)、「DIVINE US」(日本語)を検索してください。世界的なインターネット規制が始まろうとしています。私達はその日のために、文字にして紙に記録する必要を感じました。また、インターネットに不慣れな方や字幕を追って読むのが困難な方のためにも必要があると主に迫られたと感じます。

※インターネットのメッセージを、文章化するこの働きを始めた姉妹が、現在目を患って治療中です。どうか、りょくさんの為にも、お祈りください。

---

*「きょう、もし御声を聞くならば、あなたがたの心をかたくなにはならない。」ヘブル4:7*

メッセージ by Amir Tsarfati/Behold Israel : <http://beholdisrael.org/>

訳 by 木下言波 DivineUS : <https://www.youtube.com/user/TheDivineUs>

筆記 by MIHO